

(山根副会長) 皆様、定刻となりましたので、平成29年度大田区自立支援協議会第3回本会を開会させていただきますと思います。

申し遅れましたが、私は副会長の山根でございます。本日この会の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、大田区自立支援協議会、白井会長よりご挨拶をいただきます。

(白井会長) 皆様、こんにちは。今日はすっかり暑くて、桜がもう満開で、みとれてしまいました。今年度最後の会議ということですのでけれども、今日の後半の話し合いにもありますように、今回のこの会議は最後ではなくて、むしろ次年度に向けての始まりということで、架け橋にしていなければいかなと思っています。今日は28日ですので、暦で数えてみますと、あと3日でもう新年度なんですよね。なので、気分は新しい次年度、何をやるかという感じで議論を進めていければいいかなと思っています。

今日は3時45分までということで、前回よりも若干時間は長めなのですが、途中、休憩時間を挟みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(山根副会長) 白井会長、ありがとうございます。

次に、大田区立障がい者総合サポートセンター、青木所長よりご挨拶をいただきます。

(障がい者総合サポートセンター所長) 皆さん、こんにちは。当センターの所長をしております青木でございます。今日は福祉部長のほうで他の会議と重なっております、私がお挨拶させていただきます。

1年間、今、会長から、今日で終わりではないというお話がございまして、そのとおりでございませけれども、あと3日ということで、今日が今年度の最後ということでございまして、改めて御礼を申し上げます。1年間ありがとうございます。

私どもの大田区役所のほうもちょうど年度がわりということがございまして、昨日、大田区議会が最終日を迎えて、来年度予算が成立いたしました。史上最高というか、大田区政始まって以来の2,787億円という総額の予算が成立したということになっておりまして、そのうち福祉費が1,524億円、約54%、そのうち障害福祉費で185億268万円、伸び率が11.9%ということになっておりまして、大田区の予算全体の伸び率が6.5%ですので、障害福祉関係予算はそれよりも大きな伸びを示しているところで、種々の事業、それから予算のほうは拡充させていただいたということになってございます。そういった中で、一旦、今年度の活動を振り返っていただきながら、今、白井会長がおっしゃったように、来年度の具体的な活動に向けて、協議会でどのようなことに取り組んでいくのかということをお話のほうでお話し合いいただければと思っています。

こちらの白井会長にもご尽力いただきましたけれども、おた障がい施策推進プランがちょうどでき上がったということでございます。後ほどホームページ等でも本文等を皆さんもご覧になっていただければと思いますけれども、新たな計画もできたところでございまして、新年度に向けて気分を新たにまた進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、以上とさせていただきます。今日もよろしくお願いいたします。

(山根副会長) 青木所長、ありがとうございます。

続きまして、次第の1の「(3)事務連絡」について、事務局より説明をお願いいたします。

(障害福祉課長) 事務局を担当しております障害福祉課の酒井でございます。いつも大変お世話になっております。よろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますが、事務連絡及び配布資料の説明をさせていただきます。着座にてご説明をさせていただきます。

(出欠者確認、資料確認等)

(山根副会長) 酒井課長、ありがとうございます。

それでは、次第2「各専門部会の報告」に移らせていただきます。各部会の報告時間については、運営会議での検討により、前回本会と比べ2分ずつ短縮され、8分以内での発表となっております。各部会長にはご負担をおかけいたしますが、時間内での報告にご協力をお願いいたします。また、各委員の皆様には、事前に資料にお目通しいただくよう事務局より依頼があったところです。その旨をご理解いただきまして、部会の発表をお聞きいただき、ご質問等がございましたら後半の「意見交換」の時間の中でお願いいたします。限られた時間の中での円滑な会議進行に私ども役員も努めてまいりますので、皆様もご協力のほどお願い申し上げます。なお、各部会資料は、お手元の報告書(案)63ページからとなっております。

それでは、相談支援部会からご報告をお願いいたします。

(神作副会長) 皆さん、こんにちは。いつもお世話になっております。大田区立障がい者総合サポートセンターの神作でございます。本年度、相談支援部会の部会長を務めさせていただきました。相談支援部会からご報告をさせていただきます。着座にて失礼させていただきます。

お手元の資料で63ページから、パワーポイントで6枚と、その次に附属の資料が相談支援部会からございます。後ろのパワーポイントというよりは、もしかしたらお手元の資料をめくっていただきながらご説明させていただくかと思っておりますので、ご了承いただければと思います。

相談支援部会ですけれども、自立支援協議会自体が本年度で10年目ということで、今までやってきたこと、今まで課題を積み上げてきたこと、そういったことを大切に振り返りながら、今の時代に合った、この状態に合った相談支援部会の活動をやっているということが今年度の大きな目標になったのではないかと思います。自立支援協議会の設置要綱に書かれていることですが、これはお耳で聞いていただければと思いますが、「障害者及び障害児の地域における自立した生活を支援するため、相談支援事業をはじめ、地域の障害福祉の課題について具体的な検討を行うことを目的とする」と書かれております。ここに書かれていますことを忠実にやっていくということ、地域における課題をきちんと抽出して、それについて検討していくということ、また、その課題をどのように解決に向けていけるのか、そういったことを考えよう。また、相談支援部会ですので、相談支援体制について、現状がどうなのだろうか、また、どんな課題があるのだろうか、そういったことを相談支援という側面から、この大田区の地域について考えていくということを行ってまいりました。

その中で、地域における課題を抽出する方法として個別支援会議というものがございます。これまでも相談支援部会では毎年必ず個別支援会議を行いまして、その中から課題は何だろうかということを出していくということを行ってまいりました。今年度もどのような形で抽出できるのかということで、まず初めに相談支援部会で検討いたしましたけれども、10年目ということもあります、過去の課題を見たときに、様々な課題はありますが、その課題がどんなケースから抽出されたのか。個別のケースを扱ってきたので、参加された方たちはそのケースを見ておりますが、そのまま引き揚げられてしまうので、後から見たときに、それがどこの課題だったのか、何から抽出された課題だったのか、リアルなものは何だったのかということがわからない。ここは課題を抽出して後からそれを見直すときにネックになっているのではないかとということから、今年度につきましては、あえて架空事例と呼ばせていただきますが、架空の事例を用いて検討するというところを行ってまいりました。

大田区には相談支援連絡会おたといまして、相談支援事業所が毎月集まっているところで相談支援のことについて検討したりとか、互いのケースを報告したりとか、そういったことを行っている活動がございますけれども、その相談支援連絡会おたの中で、実際に今、相談支援の現場で起こっていることはどんなことなのだろうかということも挙げていただきまして、その中から架空事例を用いるという形をとっております。ですので、かけ離れた事例とか、地域課題を抽出するためにつくった事例ということでは決してなく、実際にあるところでこんなケースがある、また、今の時代はこんなことが起こっている、そういったところからどのように地域の課題を抽出していけるだろうか、そういったことを行ってまいりました。

個別支援会議になりますけれども、まず1つは虐待通報があった事例、もう1つ、後期に行ったのは、放課後等デイサービスを利用していた方が18歳になって生活介護に通うようになった事例ということで、この2つの事例について検討してまいりました。特に、後期のほうで行いました2番目の事例は、もしかすると10年前にはこういった事例はあり得なかったのではないかと思います。そういったところを見ても、この時代に現場でどんなことが起こっているのだろうか、きちんとリアルな現実のところから課題を抽出していくという作業を丁寧に行ってまいりました。

お手元の資料の68ページをご覧くださいませでしょうか。こちらに個別支援会議②のときに使った事例が載せてあります。また、その次の69ページは、そこからどのような課題があるのだろうかという地域課題を抽出した内容について書かれているということ。また、その次の70ページになりますけれども、抽出した課題についてきちんと分析をし、検討した結果、今すぐこんなことには取り組めるのではないだろうか、また、課題としては少し時間を要するのではないかと、課題をそういったことに分けていく作業まで行ってまいります。

ただ、ここから「すぐに取り組めること」について、どのように取り組んでいくのだろうかという具体的なところに至るまでには、正直ちょっと時間が足りなかったということもあわせて、そこまで至らなかったというところは、今年度の相談支援部会としては若干の反省の部分かなと思っております。

また、「時間を要すること」と書かれておりますが、こちらの部分につきましては、場合によっては施策推進プランに書かれている内容と照らし合わせてみたり、次期のプランにこの内容についてどんなことが取り上げられているのだろうか、そういったことを照らし合わせる作業も行っています。

また、最初に申し上げましたように、相談支援体制につきましては、今年度研修を行いました。4枚目のパワーポイントの資料になりますけれども、研修を行った中で、大田区の相談支援体制の検証ということで、特に、サービス等利用計画やモニタリング報告書はどのようにつくられており、どのように書かれているのか、目黒区の方をお呼びしてお話をお聞きした中で、大田区と比べてみながら

検証するという作業を行っております。

時間的には、深めるということをしていったがために、なかなか多くのことを検討するというところには正直至らなかったところに相談支援部会としての反省がございますが、一番最後のページにありますけれども、次年度への引き継ぎということで考えておりますところは、個別支援会議については、今年度のやり方については、おおむね相談支援部会のメンバーからは、架空事例を用いたメリットがあったのではないかとということで、こういった形を継続していく方法もあるのではないかとということが引き継がれていけばということになっております。

また、8050問題とか介護保険との問題、そういった様々な視点に目を向けていくことが来年度への継続の課題ということで引き継がせていただく話し合いをしたということで、相談支援部会からの報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(山根副会長) 神作副会長、ありがとうございました。続きまして、防災部会、お願いいたします。

(志村部会長) こんにちは。防災部会の部会長をさせていただいております、おたT Sネットの志村でございます。今年度はお世話になりました。防災部会の報告をさせていただきたいと思っております。

まず、報告書(案)の14ページをご覧ください。ほかの部会もそれぞれまとめたものを書いているのですが、防災部会は余計に書き込みまして、4ページもいただきました。ここで太い鍵かっこでくくっているものが大体今年度取り組んだことなので、ちょっと読ませていただきます。「ヘルプマーク・ヘルプカードの普及啓発 改良について」、「公開学習会の開催」、「防災訓練への参加・協力について」、「福祉避難所の在り方等について」、そして「次年度へ向けて」ということで、ここに書かせていただいたことがほぼほぼ全てでございますので、お時間があるときにもう1度読んでいただけるとありがたいかなと思っております。

委員はそちらにあるとおりのメンバーで、また、めくっていただきますと16ページに、防災部会の特色ですが、ほかの部会では見られない肩書きの方が大勢参加していただいております。今日も傍聴にも大勢来ていただいておりますけれども、地域の防災という視点でのつながりが、この参加メンバーの皆さんの中にもあらわれているかなと思っております。

開催状況等については、17ページに書いてあるとおりです。

それでは、パワーポイントのほうの資料に移らせていただきます。71ページでございます。防災部会です。さぼーとびあ福祉避難所開設訓練、後ほどご報告いたしますけれども、表紙にそのときの様子の写真を載せさせていただきました。

まず、後半に取り組んだことです。施設長会との連携。施設長会というのは、防災部会から見ますと、主に区内の福祉避難所の協定先の施設ということになりますね。施設18か所、特別支援学校3か所に依頼をしてアンケートを実施いたしました。項目については書いてあるとおりです。ヘルプカードについて、災害対策について、開設訓練など全13項目、結構詳しくアンケートをさせていただきました。

結果についてです。めくっていただいて、3枚目のスライドになります。アンケート結果は抜粋です。ヘルプカードは、5割の施設では所持率は100%である。各施設の災害対策は、全施設が安否確認の重要性を認識している。複数の連絡先や地域の避難場所を把握している。施設を利用している方たちの状況について、各通所施設が意識していることというのは、その利用者に関してはとても高いと思われる回答をいただきました。うちの息子も通所施設を利用している者としては、とてもありがたいことだなと思っております。次です。福祉避難所開設訓練の実施状況などということになりますと、4割の施設で実施。それぞれの思いで今やり始めていますよということと、あと未実施である。これに関して、訓練方法が不明だなみたいな正直なコメントをいただいたりもしました。

このアンケートをなぜ行ったかといいますと、ある意味、そういうばらつきを評価するというのではなくて、実際のところ、防災部会としても把握をしたいということもありましたけれども、アンケートに答えていただいた皆さんに実際を知っていただくということ、それから、そうか、そういう防災についての取り組みを、うちも地域の福祉避難所としてやらなければいかんよねという課題意識を持ってもらうためというのも正直なところでもあります。こちらのほうは通所施設の皆様にご協力いただきまして感謝をしているところです。そのようなアンケートを行いました。

続いて、「さぼーとびあ訓練に参加」というスライドになります。今年に入りまして2月14日、バレンタインデーに、さぼーとびあ福祉避難所開設訓練を実施させていただきました。参加実績としては、部会から10名、関係機関22名。防災部会として、今年度、様々な障がい当事者の人たちもメンバーにおりますので、福祉避難所が避難者を受け入れるための要配慮者の役割を私たちも担いましょうということで、ロールプレイで福祉避難所まで来る人はよっぽど状況が大変なんだよねと。防災部会に出ていらっしゃる皆様は、実は当事者の方も意識が高いので、現実的には福祉避難所へ行かないでも大丈夫な方たちかもしれないです。ただ、福祉避難所に「助けて」と来る人はこんなだよねという感じで、みんながそれぞれなりきりで参加ということにいたしました。

参加の様子を細かく次のスライドに載せさせていただきましたので、これは皆さんも読んでいただくと、ああ、そうなのかなというところもあるかもしれません。私は自閉症の息子がおります。某通所施設の施設長さんは自閉症の方をよく知っている方だったので巻き込んでしまいまして、自閉症の息子役を演じていただきました。避難所の入口から「中には入れません、外で聞いてください」と声をかけたところ、先ほど発表された神作副会長が丁寧に対応してくださった様子の写真を資料に載せております。あと、こちらに今日も出ていただいています竹内奈津子さんも、ご本人とは違うシチュエーションで参加をしていただいて、皆さんに発信していただいたということです。このさぼーとびあの訓練も、防災部会から提案をさせていただいて、昨年度から2回目となっておりますけれども、やはりできないことを積み重ねて改良していくという趣旨なので、現場の皆さんには本当にご苦勞をおかけしたと思うんですけれども、ぜひ、これにめげずにまたおつき合いいたいて、先ほどアンケートにありましたように、どうやっていいかわからないというところに伝達できていけるような形で積み上げられていければいいなと思っております。

では、次です。「次年度に向けて」というところに参ります。地域との連携ということをもっともって考えていきたいと思っております。前期、総合防災訓練に参加をさせていただいております。防災課のご配慮もあって、様々な総合防災訓練、基本は年に4回、4地域であるというところに、必ず防災部会の皆さんはどうするのという位置づけを当たり前のように置いていただけるようになりました。それ以上に各地域の訓練への参加方法がないものかなというのを、部会に参加していただいている皆さん、消防さん、警察さんも含めてアイデアをいただきながら、いいやり方を考えていけたらいいかなと思っております。

それから、ほかの専門部会、ほかのネットワークとの連携ということで、これは先ほど通所施設長会にアンケートをしましたと申し上げましたけれども、今回、後で検討課題になると思うんですが、委員の皆さんにもアンケートをとった中で、防災のことが気になっているよという方がとても多くいらっしゃると思いますので、例えば児童の放課後デイサービスの皆さんとか、今度違う方向に向けてアンケートを投げてみるということも防災部会発信でできるのではないかなと思っております。それは、先ほど言いましたとおり、それを評価するというよりは、それを行うことで皆さん自身がチェックしていただくような感じのイメージで捉えていただけるように、つなげていければいいなと思っております。

学習・情報発信の継続ということで、鍵屋先生という福祉防災コミュニティ協会の先生をお招きいたしましたけれども、そちらからの大きな学びを現実的な地域の防災についてというところに深めていける方向を探していきたいと思っております。

そして、福祉避難所開設訓練、先ほども申しましたとおり、さぼーとびあ以外でもできないかなとか、そのようなところを皆さんにご協力をお願いしながら進んでいければいいかなと思っております。

本日、机上配布されました、前半で検討したヘルプカードの新しいものができました。後であけていただければと思うんですけれども、ストラップは思い切って外しました。これを使っていたいただいてもいいです。ほかのもの、これは皆さんが「いいね」と言いますけれども、私は靴ひもなんですね。そのようなものでやっていただいても、あとビヨーンと伸びるのがいいよとかというご意見もあります。あと、カードの中身も変わっております。新しいポスターもできましたので、ぜひ休憩時間にも見ていただければいいかなと思っております。1つのメインテーマ、防災ということでやっております防災部会ですけれども、次年度以降も頑張っていけたらいいかなと思っております。どうもありがとうございました。以上です。

(鶴田副会長) では続けて、就労支援部会の報告をさせていただきたいと思っております。スライドのほうは74ページからですが、全体の説明は18～19ページにありますので、見ていただければと思います。申し遅れました。私は鶴田といいます。大田福祉工場というところで働いていて、今年度は就労支援担当者会議からの推薦という形で参加させていただいております。

では、74ページからのスライドですけれども、大田区の障がい者就労支援のネットワークの1つであり、いろいろある大田区内の障がい者就労支援に関するネットワークをさらにネットワークするという形でやっています。去年からですけれども、メンバー間の情報交換などを密に行っています。課題の3と4が後半にやったもので、1、2、5については前半で報告済みです。3、4については後のスライドにあるので、後で紹介させていただきたいと思っております。

前半の報告は49ページからありますし、前半、とりわけ協議会のあり方とか推進プランの話たくさんしたので、それに対する熱い思いを持っている方がいらっちゃって、52ページから53ページに推進プランへの意見なども出ていますので、見ていただければと思います。さらに、資料としては98ページに、協議会だよりの中に1月の段階で書いた報告も出ています。それぞれ見ていただければと思います。前半のほうは割愛させていただきます。

最初のスライドの課題3で書いた新しい就労支援ネットワークづくりということで、このときは世

田谷にあるNPO法人まひろ、就労支援部会にも参加していただいている根本さんが理事長をやっているNPOですけれども、ここでやっている若者社会参加応援事業の説明をしていただきました。引きこもっていたり、社会に出ていくことが難しい若者の支援をやっているところ、簡単に言うと大体そういうことだと思うんですけれども、そういう若者支援の仕組みが幾つか東京都内や全国にあるのですが、その中の1つで、そこでやっている事業としては、事業内容というところに書いてある3つの事業をやっているという報告を受けました。

なぜ障がい者の就労支援の話が若者支援につながるかといえば、3～4割の方が障害者手帳を持っている、あるいは申請すれば取得できるという人がそこに来ているということもあって、障がい福祉サービスを使わないけれども、困難を抱えている人たちの支援ということで、この話を就労支援部会でやって、さらに公開セミナーでも、この会から引き続き、これに関連する話をするようになりました。

公開セミナーでは、東京大学社会科学研究所の御旅屋さんという人から「若者の困難と持続可能な働き方」というタイトルでお話をいただきました。同時に、大田区内の現状ということで、NPO法人あかしろきいろからは児童福祉法から総合支援法に移り変わるところでのギャップの話とか、JOBOTAさんからは生活困窮者の支援で、まひろさんは先ほど報告したことを中心に報告していただきました。実は大田区には若者支援をするファシリティーがなくて、大田区で支援が必要な人はまひろさんを使っていたりとかいうことがあります。ひきこもりの担当セクションは保健師さんがやるということになっているらしいのですが、なかなか連携がとれていない現状があって、困難な状況を抱えているということは言えると思います。

その次は、ハローワークの方にゲストスピーカーとして来ていただいて、来年度から現在の法定雇用率2%が2.2%になり、2020年度からそれが2.3%になるわけですが、0.2%、0.3%と増えていく部分をどうしていくべきなのかという話を一緒にすることができました。これを実現していくためのオール大田的な取り組みが必要なのではないかと考えています。

来年度の課題ということですが、ここに書いてあるように、「おおた障がい施策推進プランの着実な実施に向けて」ということで、プランができたわけで、具体的にどうすればそこに書かれていることが実現できるのかも話し合っていければと考えているということと、ネットワークづくりは継続してやっていく。あと、今年度「就労継続支援B型での働き方について」ということが十分にできなかったのも、時代が変わっていく中で、授産施設からずっと引き継いでいるB型はこのままでいいのか、それとも、新しい時代に合ったB型のあり方があるのかどうかみたいなことを含めて、来年度はこのあたりを検討していければいいなと思っています。多様な働き方ということで、20時間に満たない超短時間雇用や雇用促進法によらない働き方などの話もしていきたいと思っていますということと、この4月から始まる定着支援事業がどうなるかということも見守りながら話し合っていきたいと思っています。以上です。

(谷村部会長) 引き続きまして、こども部会の発表をさせていただきます。今年度、部会長を務めさせていただきました、私、都立田園調布特別支援学校PTAの谷村でございます。

まず、報告書(案)の21ページをご覧ください。前のほうですが、今年度の活動の総括と委員の名簿等が載っております。中間報告でもお伝えしたとおり、今年度は委員が4名、専門部会のみ委員が11名、そして子どもにかかわる大田区関係各所の皆様。今年度も多くの専門分野の方と会合を重ね、たくさん学び合い、情報を共有させていただきました。年10回の部会、その前には毎回作業部会を開催し、丁寧な部会運営を心がけました。

では、お手元の報告書の80ページと81ページをお開きください。年間を通し、メンバー皆でつくり上げた発達支援マップです。すみません、小さくなっていて細かい字がたくさん羅列してあるので、お時間があるときにゆっくりご覧いただければと思います。区のホームページや「障がい者福祉のあらし」を見れば制度の1つ1つの説明はわかるのですが、子どもの成長を年齢別にリンクさせ、制度をつけていくという作業は、メンバー一人ひとり、とても有意義な作業でした。

その作業を通して見えてきたことは、就学や卒業などの節目の時期に、相談窓口や支援の内容などが変わる現実があります。その際に当事者や家族は制度の切れ目を感じていることがわかりました。この切れ目感を感じず、継続した支援につなげていくために求められるものは何かを考えさせられました。

また、大田区には数多くのサービスがあります。しかし、当事者や家族が混とんとしたイメージを持つのはなぜかという視点でマップづくりを進めていった結果、最初の相談が一元化していないところも一因ではないかと考えました。悩みを抱えた当事者や家族がそれぞれ専門機関に相談し、助言や支援を受けますが、その次の連携先や、将来つながっていく先の見通しがわかりにくいので、漠然とした不安を抱かせているのではないかと結論になりました。悩みごとにサービスを受ける側がチョイスして相談先を決めるのではなく、例えば、ホテルなどにあるようなコンシェルジュ的に相談の

第一歩を一括して担い、最適な支援先へつなげることができれば、より早く適切に解決するのではないのでしょうか。それには相談を受ける側のスキルアップも必要とされてきます。このマップを、今後、相談の場面の実践の場で活用し、さらに精査して、よりわかりやすいものへブラッシュアップさせていく必要があると思いました。今年度せっかくつくって、これで終わりにするのではなく、今後どんどん成長していく発達支援マップであってほしいと思い、マップが支援者と当事者、その家族の相談の架け橋になってほしいと、まるで産みの親になった気持ちで、今ここで発表させていただいております。

次に、78ページをご覧ください。こども部会では、今年度も大田区児童発達支援地域ネットワーク会議と合同で研修会を行いました。今年度のこども部会の委員にはこのネットワーク会議のメンバーもおりまして、開催までの意思疎通がとてもスムーズでした。また、部会の中でも放課後デイのことをリアルタイムに知ることができ、皆とても助かりました。今回は区立大森第八中学校の武富先生をお招きして、「中学校特別支援学級の指導で大切にしている事」をお話いただきました。当日は94名もの方が集まり、この会場がいっぱいの盛況ぶりでした。また、武富先生の経験豊富で具体的なお話に、参加者一同、時間がたつのも忘れるくらい集中して耳を傾けておりました。質疑応答も積極的にされ、参加者の学校への関心の高さに驚きました。

アンケートからも、現場の先生の話を通じて聞くことができ参考になった、中学校卒業後の多様な進路について勉強になった、学校での取り組みを放課後デイでも活用したい等、前向きな意見が多く挙げられていました。

また、今後取り上げてほしいテーマについては、今回のような学校についての話や、放課後デイ事業者の特色の発表、子どもへの具体的な事例の研究・研修や、例えば性教育や思春期などについての学習など多岐にわたっていました。放課後デイサービスは小学校1年生から高等部3年生まで、おおよそ12年間の子どもの成長を継続して支援している大切な場所だと思います。そのことを強みにして、よりよい支援をしてもらえるよう、今後もこども部会として様々な形で連携していくことが必要だと思います。

次に、79ページをご覧ください。こども部会が担っている大切な役割の1つ、大田区発達障がい児・者支援計画の点検評価についてです。進捗状況シートから現状を把握し、部会内で意見交換を行いました。こちらにつきましては、来年度以降、この大田区発達障がい児・者支援計画がおた障がい施策推進プランに統合されますが、引き続きこども部会として発達障がい児・者の施策に注視していきたいと思っております。

最後に、次年度へ向けてですが、みんなで3つの目標を掲げてみました。目標1、ライフステージに応じた相談支援の検討を継続し、子どもを取り巻く多くの制度や支援をよりわかりやすく適切に提供できるような仕組みを検討したい。目標2、大田区児童発達支援地域ネットワーク会議との連携を継続し、子どもを支える様々な人たちとつながりを深め、大田区全体でより質の高い支援が行われるよう努めたい。目標3、子どもというテーマはどの部会にも当てはめやすいので、ぜひ他の部会と積極的に連携していきたい。

子どもの笑顔が増えれば大人も笑顔になります。大田区の子どもたちが笑顔いっぱいになれるよう、子どもが主役のこども部会は来年度も引き続き活動してまいります。ありがとうございました。

(青山部会長) 最後になりますけれども、地域移行・地域生活支援部会の29年度の年間報告をさせていただきます。私は大田区重症心身障害児(者)を守る会の青山と申します。どうぞよろしく願いいたします。

前期の取り組みとしては3年間の部会活動の確認、事例検討Ⅰ、後期の取り組みとして事例検討Ⅱ・Ⅲ、公開勉強会、ゲストスピーカーから学ぶ、最後に平成30年度に向けてと報告をさせていただきます。

事例検討Ⅱ、事例検討Ⅲになりますけれども、私たちは1年で3つの事例検討を行いました。前期で行いました知的障がいのある方の地域移行に続いて、身体障がいのある方の地域移行を、本人の身体機能低下に伴う本人の希望と受け入れ先のマッチングの視点で検討いたしました。

また、精神障がいのある方の地域移行では、地域移行支援事業を利用した方の支援について検討いたしました。

85ページ、86ページ、87ページをご覧ください。グループに分かれて、課題の整理、課題解決の検討を行いました。回を重ねるたびに、時間をかけずにすぐに取り組める課題と時間を要する課題にまとめることができるようになり、部会全体で共有できるようになったのではないかと考えております。来年度はこの課題整理票に協議会だとか地域だとか行政だとか、誰が解決策に取り組むのかを書く項目があってもよいのではないかとということが話されております。引き続きグループの検討を行っていきたくております。

次に、29年度の部会の成果についてご報告いたします。平成28年度の部会で取りまとめた意見の中

にグループホームのネットワークが必要だという課題がありました。そして今年度、障がい者グループホーム連絡会が立ち上がり、私たちの解決策が実現いたしました。私たちは連絡会と相互に情報交換をし、次の課題に取り組みました。それはグループホームの情報発信についてです。事例検討をする中で、ご本人やご家族だけではなく、相談窓口や事業者も情報が不足していて活用できるものがないことがわかりました。そこで部会で連絡会に提案をし、それぞれのグループホームの特徴についてプロフィールをつくり、情報提供していただくことになりました。初めの一步として行政の窓口へ情報提供をしています。

また、事例検討で、地域で暮らすことを選択するために体験の場が必要ですが、大田区にはほとんどないことが課題として話されました。その中で、大田幸陽会が体験型グループホームの事業をスタートしたり、ホームプシケの体験型個室の取り組みを共有できることも成果と言えます。

次は勉強会の企画ですけれども、今年度は、5枚目のスライドにありますように、2人の講師の方にお話をいただきました。公開勉強会の戸枝さんのお話は、希望を感じることができる方も多かったのではないのでしょうか。重症心身障がいのある人たちも、グループホームで親亡き後も生活できるのではないかと思えるお話でした。これからの施設づくりや今ある施設の活用について、戸枝さんのお話を参考にし、行政や事業者、本人、家族と一緒に考えて行動に移していけたらと思いました。

2月、部会では望月さんをゲストスピーカーにお迎えし、新しく始まる地域生活援助を学びました。大田区の次の障がい施策推進プランにも、3年間で病院から106名、施設から20名の方を地域生活に移行していこうと目標が書かれております。新しい制度ができるからといって、それだけを利用するのではなく、今あるサービスの仕組みも使いながら地域生活を定着させること、また、地域包括ケアの視点も持ちながら、今足りないものを地域で考えて解決していくことが大切であることを感じました。昨年度私たちがまとめたものに地域資源一覧があります。それも活用していけるのではないかと考えております。

最後、6枚目のスライドになります。私たちは平成30年度に向けて、①グループホーム連絡会との連携を継続します。②地域移行・地域定着支援事業、新しい自立生活援助事業を広く知らせていきます。③地域で暮らすことを考えるための体験の場について検証をしていきます。④公開勉強会に取り組み、部会の戻る仕組みと支える仕組みについて情報を発信していきます。

また、先ほど触れましたが、次期おた障がい施策推進プランでは具体的な地域移行の目標数が掲げられています。私たちは、その実現に向けて、部会を次のように進めていきたいと考えております。1つは事例の検討を継続していく。グループで課題と課題解決の検討をし、部会で共有していきます。2つ目として、課題整理票をバージョンアップし、見える化を進めていきたいと考えております。3つ目には、病院からの地域移行とか施設からの地域移行のように、暮らしのあり方ごとに課題を検討していくことも行っていきたいと考えております。

来年度も引き続き、大きな課題であります戻る仕組みと支える仕組みについて、いろいろな立場の方に参加をしていただいて部会に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

(山根副会長) 各部会長の皆様、ご発表ありがとうございました。

それでは、ここで一旦休憩に入ります。次は30分から始めますので、どうぞよろしく願いいたします。

(休憩)

(山根副会長) それでは、時間となりましたので、会議を再開させていただきたいと思います。

次第の3「意見交換」に入らせていただきます。

まず、運営会議からの報告について、白井会長、お願いいたします。

(白井会長) 白井です。休憩を挟みまして、これから終了までの時間になりますが、皆様方との意見交換を中心に進めさせていただきたいと思います。

まず初めに、今年度、運営会議ということで、各部会長と会長、副会長で本会を含めまして協議会の進め方について話し合いを行ってまいりましたので、その運営会議の報告も含めましてお時間をいただきたいと思います。今年度、運営会議では、本会の円滑な進め方の検討や各専門部会での協議事項を取り上げるなど、どうやったら具体的かつ活発な協議会運営ができるだろうかということで話し合いを行ってまいりました。

その取り組みの一環としまして、先日、皆様方にもお願いをさせていただきましたように、全ての協議会委員の皆様及び各専門部会のみ委員の皆様を対象に、1年間の協議会活動を振り返る内容のアンケートを実施させていただいたところでございます。2月に入ってからということで、1か月未満という非常に短い提出期間でございましたけれども、回答率は8割を超えるということで、皆様方、お忙しい中ご協力いただきまして本当にありがとうございました。いただきましたご意見ですけれども、皆様方お一人お一人の協議会活動に対する熱い思いと受け止めております。アンケートの概要に

つきましては、委員の皆様方には事前にご送付させていただきましたA3の大きな紙の概要版、今日傍聴していただいている皆様方にも当日資料としてお配りさせていただいておりますA3のものになりますが、こちらのほうにアンケートの概要を事務局のほうでまとめをさせていただいております。

皆様方にお目通しをいただけていると思いますので、この場では詳細な説明は省略させていただきますが、今年度より協議会全体で具体的な取り組みを進めていこうということを年度当初から掲げているのですけれども、アンケート結果の内容からは、具体的な取り組みを各部会の中で意識的に実践していただけたのではないかという意見が多く見られました。一方で、協議会のあり方についての意見交換に時間をかけ過ぎてしまったというご意見や、ほとんど参加できなかった、また、初めての参加で、わからないまま進んでしまった、自分が推薦された意味や役割が不明確だったという意見もございました。また、アンケート項目にございましたように、「ほかの部会と取り組んでみたい内容は」とお伺いしたのですけれども、ほかの部会の取り組みについては知らないといったご意見も複数ございました。これらにつきましては、皆様方からの率直なご意見で、一方で、こういうご意見をふだんの部会とか、いろんな場でご発言いただくことが難しいような内容もございましたので、ぜひ来年度以降の活動にこのお一人お一人の意見を反映させていただきたいと考えております。

本日、これから皆様方には、発表がありました今年度の活動を踏まえまして、来年度以降、次の年度に向けてどういうふうにしていったらいいのか、どのように進めていくかといった前向きな提案としてご発言をいただければと考えております。具体的な取り組みに向かって、よいスタートが切れますように、このアンケート結果も活用させていただければと考えております。

それで、私ども役員の方から、来年度の活動につきまして1つご提案をさせていただきたいと考えております。どのような点かと申しますと、来年度の部会のうち、大体10回ぐらい部会をされていると思うんですけれども、そのうちの1回を合同部会という形で、それぞれの協議会委員、あと部会のみ委員さん全員を含めまして、合同で部会をしてはどうかということを役員の方からご提案させていただきたいと考えております。

具体的な中身については、次年度以降、新しいメンバーで話し合いをしながら進めていくということになると思うんですけれども、先日の運営会議の中で出た1つの案としましては、皆様方共通で関心のあるテーマに関する講演をみんなで聞きました後に、もうちょっと話しやすいようなグループごとに分かれてディスカッションしてみたらどうなのだろうかなんていう意見も出てございます。その際に、せっかく集まりますので、それぞれの委員の方々が所属する部会のお立場から発言していただくことで、部会が違っても同じ話を聞いてもこのように見方が違うんだな、そのように、お互いに理解を深める場にもなるのではないかという意見も出ております。ただ、これは1つの案でございますので、これからの意見交換も含めまして、またご議論いただければと考えております。

それでは、長くなりましたけれども、これまでお話しさせていただきましたことを踏まえまして、これより委員の皆様には、お手元にありますアンケートの概要についてご意見やご感想、また、私ども役員からの提案であります合同部会の開催についてのご意見、また、合同部会を行うということでご同意いただきました場合には、どのようなテーマを扱ったらいいのだろうか、この3点を中心に、あと一番大事な前半部分でご報告のありました内容に対するご意見、ご質問も含めまして、大きく4つの点を中心に、この後、お時間がございますので、ご発言いただければと考えております。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

(山根副会長) 白井会長、ありがとうございます。

続きまして、次第3の「(2)来年度の協議会について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

(障がい者総合サポートセンター次長) サポートセンター次長の関です。どうぞよろしくお願いいたします。済みません、座って失礼をさせていただきます。来年度の協議会に向けてということで、ちょっとお時間をいただきまして私から説明をさせていただきます。詳しくはこちらの32ページをご覧くださいと思うんですけれども、まず本会がございまして。会長、副会長、各専門部会長によって構成されております運営会議があります。本日、前半でご報告いただきました5つの部会につきましても継続ということで次年度も考えております。

来年度の活動についてですが、皆様とこれからご意見を交わさせていただくことになるかと思うんですけれども、ぜひともお願いがございまして。協議会の設置目的であるところの地域の障害福祉課題についての具体的な検討、それと所掌事項に記載があるのですけれども、地域の関係機関との連携体制の構築というところにぜひとも注目してご発言いただければというところです。私ども障がい者総合サポートセンターは関係機関との連携体制の構築という役割を担っておりますので、そこについても今後も強く進めていきたいと考えております。本日、今年度新たにできたグループホーム連絡会との連携によるというご報告が地域移行のほうからあったかと思うんですけれども、ぜひとも自立支援協議会とネットワーク会議との連携といったようなところで具体的な動きをしていただければ大変ありがたいところです。



サポートセンターはこの3月でちょうど3年たつのですけれども、何で私がここでしゃべっているかという話になるかとは思いますが、今まで共同事務局ということで、障害福祉課とうちでやらせていただいていたのですが、4月からは私どもが全部やらせていただくという体制で、事務局については障がい者総合サポートセンターが担うこととなりますので、どうぞよろしく願いいたします。3年たつていろいろ見えてきたところがあります。ネットワーク、連携という言葉は、言ってしまうと本当に簡単な言葉ですが、それを実践していくのがどんなに大変なことかというのを多分実感を持ってわかってくださっているのは自立支援協議会さんなのかなと思っておりますので、そこを実現するために、私どもにぜひともお力をお貸しいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(山根副会長) 関次長、ありがとうございます。

それでは、これから15時35分まで意見交換の時間とさせていただきます。本日の5つの部会の報告及び運営会議からのアンケートの実施結果などの報告を受けまして、質問や感想など、ご意見をお聞かせいただきたいと思っております。白井会長からは部会の報告に対する感想、アンケート実施に関する感想、合同部会開催の提案についてのご意見、合同部会を行う際のテーマについて、また、今、事務局からは協議会のテーマであります地域福祉の課題の具体的な検討について、もう1点、地域の関係機関とのネットワークといったところについて、テーマは多岐にわたっておりますけれども、こちらにご参加の委員の皆様からご発言を頂戴したいと思います。忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思っております。まずは挙手にてご発言をお願いしたいと思います。どなたかいかがでしょうか。

(志村部会長) 防災部会を担当しております志村でございます。先ほど報告を聞いていただいたのですけれども、大事なことがあります。ご本人でヘルプカードをつけている方から聞こえてきた声があります。1人の方は、てんかん発作をお持ちなのだけれども、自分が倒れるのはほんの短い時間である、ヘルプカードをつけているのは、そのことを伝えたいのだけれども、僕が倒れるとすぐ救急車を呼ばれちゃう、それがすごく困るというようなお話がありました。ヘルプカードってこういうつもりでつくったんだよとか、しばらくそのような話をしたのですけれども、彼には、ヘルプカードの外側に僕が倒れたら中を見てくださいと書いてくださいね、鞆のネットの中にあると、防災部会でもお話しましたが、消防や警察の方も、人様の荷物をぱっと出すというのは、個人の持ち物なので、なかなかしづらい部分もあるから、外側にぶら下げていてねというお話をしました。それが1点。

あと、おたT S ネットの定例会の中で、高次脳機能障がいの方がヘルプカードをつけているのに職務質問されちゃったという事例がありました。ヘルプカードというのは職務質問を避けるためのものではないよねという話にもなったのですけれども、実際に物があると、やはりつけられている当事者の方のお話を聞くことができたのはとても勉強になったと思っております。これは相互の啓発というところで、今日傍聴にも来ていただいている防災部会関係の皆さんもいらっしゃるのですけれども、そんな声もあるということで、ぜひここで話ししてくるねという約束をしたので、話をさせていただきました。

そんなことが防災部会の報告のプラスアルファというところであるのですが、アンケートの中には、本人のニーズ、本人主体であるとか、権利擁護、意思決定支援、そのような言葉が右側のほうにいっぱい並んでいます。この協議会に向かって、ご本人が思いをちゃんと出せるような場面づくりが今後できたらいいのではないかなと妄想をしている人間でございます。なので、皆さんにもお知恵をいただきながら、次年度以降そういう場面づくりについても考えていただきたいと思っております。

アンケートの感想に動くのですけれども、一番左の一番下のところ、初めて参加でと先ほど白井先生のお話にもありましたが、勉強しましたという感想は困るよねと。私は長くこちらにかかわってまして、いつも1年間、その方の役割を發揮できるようなやり方を模索しながらやってきました。やっぱりここでもこういう回答が出てしまったというのはちょっと残念な部分でもあるんですね。なので、次年度、全体での合同部会の実現はいいのではないかなと思っております。年度当初に目的をしっかり持って、中間のときには皆さんが共通のところから始まって、もう既に動いているぞという実感を持てるような次の年度の最初の動き出しに期待をしているところです。

テーマについては、私は自分でも書いておるのですけれども、今までの協議会でいま1つ手が出し切れていない権利擁護、これもすごく含みの大きい、いろいろな場面があるところですが、私たちがつくりましたおたT S ネットというところは触法絡みまで、司法と福祉の連携までみたいなことをやっておるのですけれども、地域の生活を安心・安全にということでは外せないポイントだと思っておりますので、権利擁護的なところの課題意識を協議会で上げていただけるようなチャンスがいただければと思っています。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。続いてご意見はございませんでしょうか。まず、古怒田さん、お願いいたします。

(古怒田委員) 精神障害者家族連絡会の古怒田と申します。今回の資料をさっと読ませていただい

て、事例検討などは具体的に、昨年度よりも一段といろいろ出されていて、すごくわかりやすかったです。それと、前回の区報の中でも生きづらさの発信と気づきという点で出されていて、取り組みが始まっているということがよくわかりました。ただ、先ほどいただいた資料の中でも、精神の中でも今精神医療が対象としているのは統合失調症だけではなくて、各種依存症、薬物だとかアルコールだとかギャンブルだとか、様々な依存症がありますよね。それで、留学から帰ったら、大麻は禁止されていない国もあって、物は持ち込めないにしても、大麻依存になっているとか、そういうことも含めて、あと去年のニュースだったと思いますけれども、子どもにキャラメルとかあめみたいな形で薬物が入ってきている。そういう範囲をどういうふうに規定しているのかということで、資料の中ではちょっと見当たらなかったかなと。

あと、精神障がい者の場合は、作業だとか就労だとかグループホームだとか、どこに住むかということの前に、医療の分野でものすごく問題が多い。今、拘束漬けで、拘束しているから家族に会わせないとか、様々な問題があったりして、何か所かに言葉は出てきましたけれども、医療と福祉をどう結びつけるかということ、あと東京都との関係ですね。認定されれば精神科の受診については無料なんです。けど、ほかの医療については3割負担だったりということで、働けない上に3割負担ということになると、家族の負担が重いとか、あるいは本人が病院に行かなくなるとということで、親亡き後も心配だけど、平均寿命より20年も寿命が短いということも一方で指摘されていて、去年、家族会では署名をしたり、東京都に運動をしたりして、東京都では全会一致で精神障がい者の認定を受けている人については精神科以外も無料にしましょうということで、多分今度の都議会を通るということのように思いますが、事例検討の中でも、結局、その場その場での対応はされても、トータルとしてその人をどうサポートするのか、社会復帰につなげるのかということがはっきりしていないし、技術人も足りないということも指摘されていますよね。そうすると、予算が決まったというお話だったので、予備の予算があればいいのですけれども、そうではないと、結局、せっかくかけた予算が堂々めぐりというか、あまり生きないのではないかなとということで、開催する時期とか、どう反映できるのかも含めて、ちょっと知りたいなと思いました。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。先ほどお手をお挙げくださったのは宮崎委員ですね。お願いいたします。

(宮崎委員) 宮崎でございます。1年間、本当にありがとうございました。この資料もいただいたときに見せていただいて、昨日の夜も読んで、今日の朝も電車の中で読んできたのですけれども、合同部会は、今、会長さんからお話があったように、私はもろ手を挙げて大賛成でございます。なぜかといいますと、こども部会で今回マップづくりに参加したんですけれども、先ほど相談支援部会的事例検討の中で、今、私がちょうど施設を運営している放課後等デイサービスを18歳までずっとフルで使っていたのだけれども、その後、行き場がないという話があったんですが、実はこれと根源が同じ話がマップづくりの中で出ていました。皆さん、マップをもう1度ご覧になっていただくとよくわかるのですが、18歳までは0歳からこれだけいろんな制度が実はあります。18歳までは児童の扱いですから、児童福祉法の中で今僕らの施設は運営されているのですけれども、18歳を超して大人の施設になってしまうと、例えばこれだけのフォローを全部受けることができないんですね。先ほどお話もありましたように、今度は医療との関係がものすごく強いので、例えば放課後等デイサービスを何も考えずにずっと使っていると、こういうことが起きてしまうよというのは、我々もマップをつくっている中で、谷村部会長と一緒にさんざんしていた話で、昨日改めて読んでいて、これは明日、話をしたほうがいいのかなど思っていたところなんです。

皆さんご存じのように、日本の法律って、とにかく障がいを持たれている方、本人の主体が一番だと。法律の文言上はそのとおりになっているのですけれども、この事例の話も考えちゃうと、18歳以上で新しい制度をつくったほうがいいのかと言いますね。だけど、新しい制度をつくるのは、先ほどのお話からずっと出ているように、文言をつくるのも大変で、予算をとるのも大変で、思ってから最低でも5年とか10年とかかかっちゃうわけじゃないですか。だけど、実際にお暮らしになっている方は、そんなのを待ってられないですよね。であるならば、一体どうすればいいのかということですね。

そのときに、私は谷村さんにちょっとお話しして、覚えていらっしゃるかどうかかわからないんですけれども、18歳までの間で、ただ単に楽だからとか、本人が楽しみだからと制度を使っていくのは大事ですが、それだけではなくて、ご本人の成長に合わせた、僕は前向きな殻の破り方という言い方をしているのですけれども、殻の破り方をどうすればいいのかということを考えていかなければいけない。今回の場合、この事例が仮の話だとなっていましたよね。もし仮の話であれば、仮の話にリアリティーをどこかで加えていかなければいけないと僕は思っているんです。仮の話ってすごく大事なんです。なぜかといえば、個人情報があるから。

私も、この前、高次脳的事例を出させていただいたのですが、15分の発表で、その15倍ぐらいの時

間を使って資料をつくるのですけれども、彼はうちに来て6年たつのですが、言いたいことは本当に10分の1も言えなかった。だけど、この続きを聞きたいという方が、そのとき少なからずいらっしやった。なので、リアリティーのあるものに関しては皆さんかなり耳も傾けますし、先人の苦労とか、ああ、同じことを考えていらっしやるんだなというところは見ていただけると思うんです。

リアリティーをつけていくには、やっぱり想像力が必要だと思うんですね。もし来年度、こういう形でまた仮の事例をおやりになるのであれば、私も今、現場を抜けてここまで来ていますけれども、実際に現場に立って、今うちでは高校生の男の子が6人いて、今度高校に上がる子が4人います。33人の登録の中で高校生が10人なので、現実的にあと3年未満で、1年もないよという子たちをたくさん見えています。その子たちが今実際に同じことを言っています。出ていったら僕らはもう来られないんだよねという話。そう、制度上は無理だよと。私たちは法人としてどうしようかと考えています。だけど、それは制度の中ではないので、彼らから多少お金をいただいたり、活動費をいただきながらやっていく方法はどこにあるのかなということでも落とし込みをしようかなと、今、法人の上と話をしているところなんです。

話があっちこっちへ行っちゃって申しわけないんですけれども、こういう形であるのであれば、もっと部会間で、仮の話で構わないんですが、例えば、今の古怒田さんのお話もそうなんだけど、現実的に今そこでいろんなことを考えていらっしやる方をゲストスピーカーで呼びになって、こういう部分でこう考えているんだけど、ここはどうなんですかとお話を伺っちゃったほうが、外の先生をお呼びになるのが悪いというわけではないし、決して僕はここで否定しているわけではないんですよ。だけれども、そういう形で、今、大田区の中でいろんなことを感じていらっしやる方を、これだけのネットワークがおありになるのだから、もっともっと活用していいのかなと僕は思っています。

それで、こども部会の話に戻りますけれども、今回も合同部会ということでお話をさせていただいて、武富先生のお話を聞きましたというご報告があったと思うんですが、合同部会の中でも、自立支援協議会でどんなことが議論になっているのかということも、私もこの前、本会の前だったのでけれども、1年間こんなことをやってきたという話をしたら、やっぱりもっと皆さん伺いたい。支援をする側の人間として、もっと成長していきたい、もっといろんな事例も知りたい、区の方針がどういうことになっているのか、どんなことがあるのかということもやっぱり知りたいという方がすごく多かったです。僕は今つなぎの立場にいますから、ここで起こったことも、また来年度のネットワーク会議の中で報告をしますし、継続してやらせていただければ、こども部会の中でも僕はやろうと思っておりますけれども、今いる人たちの声をもっと聞きながら、現実の中でリアリティーをもう少し足していくということに関しては、すごく大事だなと思っています。

なので、合同で部会を開く。どこに焦点を絞るかはすごく難しいので、その都度その都度、皆さんにこんなことをとって、ちょっと大変かもしれないんですけれども、年度の頭でアンケートをおとりいただいて、その中で、今年度はこれとこれかなみたいな形で探っていくのがいいのかなと思うんです。なかなか意見はまとまらないと思うんですけれども、そんなふうに思っております。

この協議会も雲の上にあるところではなくて、実際に皆さんが生活している中で、意見を交換したり、顔を知っていたり、いい意味で味方を増やしていく場だと僕は思っているのでも、その味方を増やしていく場を活性化していくには、僕らはもっともっといろんなところで細い糸のようにお互いが混じり合っていく必要があるのだろうと、この1年間、改めて思いました。来年度もしその役があるようでしたら、ちょっとずつでもいいと思うので、太くしていったり、また細かくしていったりできればと思います。ありがとうございました。

(山根副会長) ありがとうございます。合同部会に関するご意見などを頂戴しておりますけれども、今回の報告の感想でも何でも結構ですので、続けてお願いしたいと思います。どなたかいらっしやいませんかでしょうか。大場委員、お願いいたします。

(大場委員) 新井宿福祉園の大場と申します。1年間ありがとうございました。今回の感想としては、私は相談支援部会のほうに参加させていただきまして、より具体的な形で架空事例を個別支援会議でやらせていただいて、こういった形で皆様にご提示できたというのは、私は今年度初めてだったのですけれども、今まではこういった形で出せなかったというお話を聞いていましたので、形になって本当によかったなと思います。課題抽出というところでも、より具体的な内容に対しての課題というところで、よりわかりやすいのかなと思っています。

あと、今回の報告でもありました、こども部会の発達支援マップは、とてもすばらしいものに仕上がっているなという感想で、見させていただきました。これを見て、大学・社会人、20歳までのマップですけれども、この先、高齢まで、もちろん本当に多岐にわたると思うんですが、この部会で言えば就労とか地域移行・地域生活、それにまた医療も絡んでくると思うんです。こういった内容を、本当に多岐にわたるので、まとめるのは大変だと思うんですけれども、こういった形で見える化、可視化することで、当事者も、あと支援者のほうも、より見えやすく、わかりやすくなるのかなという印

象を受けました。

あと、合同部会の件ですけれども、私も賛成でして、やはりネットワークづくりがこちらの肝となっているということで、議題をどのような形というのは、今、私はすぐには出てきませんが、いろんな意見交換をする場、それを発信する場という形で、自立支援協議会の役割ということで、もしまた参加させていただければやらせていただきたいと思います。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。岡田委員、お願いいたします。

(岡田委員) 大田区社会福祉協議会成年後見センターの岡田と申します。私の感想は、事例検討にこども部会のほうからオブザーバーということで入っていただいた。そこで、こども部会ならではの意見を聞いたということは大変よかったなと思うんですね。そういうところに合同部会のよさも出てくるのではないかと思います。ですから、全部の部会というよりは、内容に合わせたマッチングといえますか、組み合わせでの部会開催というのも今後とてもいいのではないかと感じております。

あと、私も今年2年目ですけれども、1年目のときに、志村委員から勉強では困るんですよというところがすごく残っていて、来たばかりのときは、どういう役割なのかなというところから探りながら、手探りで部会に参加していたというところがあるのですが、2年目になるとやっと流れがわかってきて、役割と、どういうところをポイントにということもわかってくるんですけれども、今、委員の任期が特になくて、1年でも再任でもということだとは思うんですね。推進プランの関係もあるかもしれないのですが、私も社協の中で委員の事務局を担って、毎年毎年委員が代わってしまうと、やっぱり戻ってしまうということもあるので、もし任期が設けられるのだったら2年とか、再任を妨げないとか、そういうのがあると、もう少しつながった、みんなが勉強からというのではなくて、そういう体制がもしかしたら組めるのかなとちょっと感じました。

(山根副会長) ありがとうございます。今、委員の話もございましたけれども、そのあたりを受けて、ご意見はいかがでしょうか。栗田委員、いかがでしょうか。お願いいたします。

(栗田委員) 大田区居宅事業者ネットワークの推薦をいただきまして、1年間会議に出席させていただきました、NPO法人ASKの栗田と申します。アンケートのほうに推薦の団体のことについて書かせていただいたので、ご指名を受けたのかと思うんですけれども、推薦団体として委員を推薦するに当たって、その団体として何を伝えていくのか、何を課題として持って部会、協議会に参加するのかということとをさらに深めていく時期になっているのではないかなと思っております。ですので、任期とか、いろいろな方法はあるかと思うんですが、ただ単に委員を推薦しているという団体ではなくて、やはり選ばれた団体だと思いますので、その団体に対して自立支援協議会からの投げかけというののもあってもいいのかなと思っております。

それと、第1回目から居宅ネットから推薦をさせていただいて委員を出させていただいていますが、自己研さんの場ではないということとをずっと言い続けてきておりました。この自立支援協議会というのは、ここで話し合われたことがいかに地域に反映され、地域力として活性化されていくかということとを目的としていかなければならないと常に考えておまして、ようやく10年目というところで、各部会がかなりテーマを重く今年度は話されたのではないかなと思っております。報告を受けて、やはり発信といいますか、地域につながっているなと改めて実感したところです。

報告の中にグループホーム連絡会との連携というのがありました。私どものNPO法人ASKは、大田区の中で唯一、重度の方のグループホームを運営している法人でもありまして、やはり横のつながりというものをとても大切にしております。ただ、事業所の中には、横のつながりというものを特に問題視していないところも多々ありまして、事業としては成り立ってしまう。でも、成り立っているからといって、いいということではなくて、私たちは何のために事業を展開しているのかということ、横のつながりというところで、いろいろ課題抽出だとか、創意工夫であるとか、制度の変化に対しての対応策であるとかということとを話し合う場でもなければならぬかなと思っております。今回お声かけをいただきまして連絡会が発足したということは大変ありがたいことだと感謝しておりますし、私たちが話し合ったことが自立支援協議会のほうにつながっていくことによって、より地域力、地域とのつながり、安心して暮らせる地域づくりというものに発展していただければいいなと思っております。

もう1点だけお話しさせていただきたいと思いますが、先ほど宮崎さんから放課後児童デイを最大利用すると12年というお話がありました。放課後児童デイができたということは本当に必要不可欠だと思いますか、時代の流れというものがありまして、とても大切なことだと思うんですが、現在、私どもの居宅事業のほうのガイドヘルプの事業ですが、もともとは学校のお迎えといいますと、ガイドヘルパーが学校の放課後にお迎えに行くという分布図だったんですけれども、今は分布図が変わりまして、移動支援のヘルパーは2~3人で、あとのスタッフさんたちは皆さん放課後児童デイという流れです。別に仕事がなくなったことに対してとやかく言うつもりはないんですが、本当にこれでお子さんたちの支援はいいのかなと思っております。

それはなぜかといいますと、移動支援でお迎えに行っていたときには、ヘルパーとお子さんたちがまちの中にあふれていたんです。多少は電車の中で騒いでしまったり、泣き叫んでしまったりということもあって、皆さんのご理解をいただきながら、温かく見守っていただきながらという支援をしてきていたんです。放課後児童デイが悪いとは言いませんが、送迎がついているところがほぼほぼです。そうしますと、学校から出たところで子どもたちの姿がまちの中から消えます。朝、スクールバスでバスポイントからバスに乗りまして学校に着きます。学校が終わりまして放課後児童デイのマイクロに乗って、または乗用車に乗ってそれぞれの施設に通われます。5時、5時半というところで終わりまして、ご自宅のほうに車で送迎。社会の中で、どこに子どもたちがいるのでしょうか。それがだめだというふうには思っておりません。ただ、お子さんによっては、やはり毎日の積み重ねというものが大切なお子さんたちもいるのではないかと。そこのところで相談支援の方々との連携、お子さんを中心に必要なことを学ぶ機会をコーディネートしていくということも、自立支援協議会からの発信でつなげていくことが可能なのではないかなと思っております。各部会で連携を図ることによって、大田区の安心して暮らせるまちづくりというものに対して投げかけられるものも役割として大きいかなと思っておりますので、引き続き、居宅ネットのほうから委員を参加させていただき予定でございますので、どうぞよろしくお願いたします。1年間ありがとうございました。

(山根副会長) ありがとうございます。今のご意見を伺って、ほかに何かございますでしょうか。福田委員、お願いたします。

(福田委員) 大田区肢体不自由児(者)父母の会から来ております福田と申します。委員についてですけれども、私も2年目ですが、なかなかなじめないというのはおかしいのですけれども、志村さんが言うように、参加しているだけではだめなんだよというのはわかりますが、頭がいっぱいいっぱい、昨年度と今年度、違う部会に出ていることもあって、なかなか難しい面もあるのが感想でございます。

合同部会に関しては、やはり行っていったほうが良いと思えますし、さっき岡田委員がおっしゃったように、委員全員だと人数が多いので、やはり分けて、テーマごとに沿ってやったほうが良いのではないかなと思えます。

また、大田区は障がい者の団体が何団体かあって、肢体不自由に関しては、うちと守る会さんがあるのですけれども、私も父母の会に参加してまだ日が浅いのですが、守る会さんとの連携があまりうまくいっていないとか、横のつながり、情報交換がうまくできていないような感じを今受けていまして、育成会さんともそうなのですけれども、そうすると、ちょっと話が大きくなってしまいますので、今後の課題として、情報を共有することによって自立支援協議会のほうにも意見を言いやすくなるのではないかと考えています。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(青山部会長) 今、福田委員のほうからお話をいただきました、守る会の青山と申します。確かに、子どもの障がいが違うということもあって、今までは連携をとっていくということをやらずしていなかったのが事実でございます。でも、子どもたちが年齢を重ねるごとに重度化しておりまして、医療的なものが必要になってきている。また、これから医療的なものが必要になってくるであろうということが、会長さん同士の中でのお話はなされているようで、そういうことを通して、今後、うちの会長と肢体不自由児(者)父母の会の会長の中でお話をしていきたいなど。それと、サポートセンターのほうで二期工事が今進められておりますので、利用する子どもたちについてとか、そういうこともお話をしていけたらいいのではないかなということ、今、遅いと言われるかもしれないのですけれども、連携はとってお話をしているようでございます。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。部会の発表を受けての感想でも結構ですので、田邊委員、何かご意見がございましたらお願したいと思います。

(田邊委員) 大身連の田邊と申します。アンケートのほうで、発達支援マップをつくるのは大変だったかなと思えます。今後役に立っていただければと思います。

それから、私は3・11のころ防災部会に入りまして、ちょうどヘルプカードをつくっているときだったんですね。何年かたって改めて防災部会に昨年から入りまして、ヘルプカードの見直しをいたしまして、情報保障とか、補装具とか、食物アレルギーとか、いろいろつくりまして充実してきたのではないかなと思っております。楽しくやらせていただきました。

それから、合同部会についてですけれども、同じ議題でそれぞれの部会の方がいろいろな意見を出し合っていくのはいいことではないかなと思っております。議題に関してはちょっとわかりませんが、よろしくお願いたします。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。続けて、遠藤委員、お願いたします。

(遠藤委員) 肢体協の遠藤と申します。今年度は就労支援部会で、鶴田副会長のもとでいろいろとやらせていただきましたけれども、わからないながらも、それなりにやってきました。ただ、感じた

ことは、確かに就労する方についてはかなりいろんなことが多いなという感じは受けました。これからも支援は必要だと思います。

合同部会をお願いします。内容その他は後で決めていただいとしたいと思います。ありがとうございました。

(山根副会長) ありがとうございます。それでは、竹内委員、何かご意見がございましたらぜひお願いいたします。

(竹内委員) 大田区視力障害者福祉協会から参っております竹内と申します。皆さん、今後の未来を担う子どもたちのことなので、お子様のことをとても熱心に語られていらっしゃるのですが、何せ私どもの会は非常に高齢化が進んでおります。地域との関連性も、私は犬と歩いていますから、周りの人から見れば非常に目立っていると思いますけれども、私には相手がどのように私に注目しているかは一切わかりません。災害が起きたときにどのように逃げられるか、それが私どもの会の高齢者の一番の問題点。地域がどんなふう私たちに手を差し伸べてくれるか。けれども、私たちが地域にも手を出していかなければ、それはお互いのものであり得ないものになってくると思うのですが、何せ高齢化しています。頭がかたいです。自分から何かしようということがないので、この2年間、私は防災部会委員として活動してきて、この温度差に頭を痛めて、今後どうしていいかわかりませんが、次年度からはまた別の委員がこの会に参加させていただきます。その人はきちんとした意見を持っているので、私はその人に頑張っていたきたいと思っています。以上です。ありがとうございました。

(山根副会長) ありがとうございます。続きまして、田中委員、お願いいたします。

(田中委員) かまた生活支援センターの田中です。委員としては今年度1年間やったのですが、相談が全ての支援の基本というか、原点をなすものだと、ずっといろいろな方に言われてきて、そうなのだと思うと、ある人との会話の中から、その人が望んでいる生活、人生をどうやって実現するかと考えていくというのは、相談がまずは基本だなど。私どものところは精神障がいの方がメインなので、ちょっと頭から離れそうなのですが、ライフステージごとにその人の課題は違ってきて、相談においてそれがわかってくるはずなのに、やっぱり子どものこととかわからないですし、高齢になって一体どうなっていくのか、そういうものをきちんと考えていけたほうがいいなど。

それで、今回、架空事例と言っていますが、ある現実の事例をベースにしながら、つくった事例をどうしていくというので、課題とかをすごく検討しやすい形になって、私は意外とよかったですと思いました。ライフステージとともに今度地域移行、精神だと入院されている方で、その現場に行くと実際のお話を聞いて、その人が地域に戻ってきてどのように生活したいかを聞いてくるというのも私はやっています。空間的な広さを持った相談も実はすごく重要だけれども、意外と皆さん意識されていないかなというところがあるので、そういう形で相談支援部会としては、ほかのこども部会さんとか地域移行部会さん、そこら辺と乗り入れをして、最終的には合同の会というのができるとうまにいいのかなと思っています。今年度、報告書とかを見ているとすごく充実しているので、このままの形で一步一步進んでいったらいいかなという感想を持ちました。以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。それでは、岡戸委員、お願いいたします。

(岡戸委員) 矢口特別支援学校で、防災部会に所属している岡戸と申します。感想になりますが、改めて地域や関係機関との連携は大切だなと感じているところです。学校においても、例えば今年度から都立の特別支援学校全てで1泊2日の宿泊防災訓練を実施しなければいけないということで、うちの学校でも行ったのですが、やはり地域との連携をしっかり入れ込んで行うということが示されています。

うちの学校では、大規模災害のときの訓練としては、そのほかにも福祉避難所開設準備訓練というのがありまして、福祉避難所を開設するまでのところはかなり取り組んでいるところですが、実際に運営になった部分ではどのようにやっていくかというのは、まだシミュレーションがあまりされていないところですので、こういうところも地域との連携をしっかりとっていきたいと思っています。

うちの学校は、年に2回、防災教育推進委員会という会がありまして、関係機関、地域の方が集まりまして、大規模災害とか、そういうときに連携をどうするかを話し合う場がありますので、そこで今後についてももっとしっかり連携がとれるように話し合っていきたいと思っています。私からは以上です。

(山根副会長) ありがとうございます。齋藤委員、お願いいたします。

(齋藤委員) 城南特別支援学校の齋藤と申します。私も地域移行・地域生活支援部会に参加させていただいて2年目になります。私も、先ほど志村委員が言っていた、1年目は本当に勉強だったなというか、2年たっても勉強したなど。すごく勉強になったということは思っているのですが、ただ、私も今年度は、何かしら私がいる意味はあるのかなとか、私は何ができるのだろうか。熱い皆さんの中で、1人、本当にどうしたらいいのだろうかというところもありながら参加させていただいたのですが、皆さんからさっきいろいろとご意見をいただいた中で、この資料の中にもあるのです

が、こども部会さんのほうで支援マップをつくられていたかと思うんですけども、まさに私も進路指導する上で、保護者の皆さんが、高等部卒業までの手厚さと、そこから先の不安というか、本当に選べる施設が少ない、さらに医療的ケアがあると本当に少ないという現実を知って、さらに実習に行くと、学校とは違う支援の薄さというか、仕方がないのですけれども、それに驚いて、保護者は不安だらけなんです。そういう不安だけが後々の後輩たちに受け継がれて、後輩のお母様方は本当に不安だらけではないかとはいえませんが、私には聞かなくていいです。その中で、私も今年度いろいろとここで学ばせていただいたこと、いや、そんなことはないですよということと言えるといいなというところに来ているのですが、まだまだそこには至ってはいないのですけれども、つながって、私自身もすぐ勉強させていただいて、少しでも私も学校で返せたらということでは今年度なったかなと思ってはいるのです。これは私ごとですが、学校の中でも教員の皆さんに大田区の現状を知ってもらわなければいけないのかなと思いつつ、そういったところの橋渡しができたらもっといいのかなと思います。

合同部会については賛成です。ただ、やはり人数が多くなってしまうと、何をやっているのだろうという成果というか、やった意味が見えないのかなというところもあって、共通のテーマで絞ったり、あと割と話しやすいこども部会さんとか、そういったところのまとまりで、少し小さめのところでやるのもいいのかなと思います。ぜひ進められたらいいなと思っております。以上です。ありがとうございます。

(山根副会長) ありがとうございます。それでは、相原委員、お願いいたします。

(相原委員) 社会福祉法人大田幸陽会の相原です。よろしくをお願いいたします。私は今年度から委員ということで、今まであったとおり、やはり勉強の毎日で、右も左もわからないというところがありました。地域移行・地域生活支援部会のほうに参加させていただいて、一定の成果はグループホームの体験型をようやくスタートさせることができたというところで、利用された方のお話を聞いてみますと、初めはグループホームというところが何か全くわからなかった、わからないがゆえに不安だったというお話を伺って、1週間、2週間経過していくごとにどんどん慣れてきて、今までおうちでは洗い物だったり、洗濯だったり、日々自分で生活していく中でやっていく家事も、最初はそれこそ食器を水洗いだけで終わってしまったりとか、洗濯機も使い方がわからなかったり、洗剤の量がなかなかわからないというところを、1つずつ支援していく中で覚えていって、最終的には自分で洗濯を干したりとか、洗い物もしっかりできるようになったりというところで、そのあたりをご本人さんたちと振り返ることで、いい体験だったということと、まだ3名ほどですけれども、グループホームって結構楽しいですねというお話を聞くことができて、少しずつですが、やはり体験していくことでグループホームというのはこんなところと皆さんがイメージを持っていただけることは、大きな成果が出たのかなと感じております。そういった意味では、今はまだ男性寮の方だけというところがありますので、なかなか女性の方の利用が難しい部分はあるのですが、今後はそこも法人の中で何かしらやっていく必要があるのかなと感じております。

あと、私も合同部会についてはいいかなと思いますが、やはりテーマであったり、合同になりますと人数がどうしても大勢になりますので、どのような形での開催が望ましいのかというのは、今後また皆さんとお知恵を出しながらつくっていければいいのかなと考えております。

(山根副会長) ありがとうございます。お待ちしております。申しわけありません。お願いいたします。

(古怒田委員) さっきちょっと言い忘れて。3つですけれども、1つは、この間、NHKでA型の就労について、結局、幾つもの会社がつぶれていると。精神の人の就労の場合は、しょっちゅう休んだり、遅刻したり、会社に仕事を求めて回っても単価が非常に安い仕事ばかりだから、出ている助成金を給料に使ってはいけないという厚生労働省の指導なので、とてもやっていけないということで幾つものつぶれている。

このことに関して、ある家族の方から、文京区は区が助成している、本当かどうか私はわからないのですけれども、という話もあったり、あと荏原病院が公社化されましたが、去年3人も医師がそろってやめちゃったんですね。それで、通っていた人は本当にパニックになって、今でも先生を追って川崎に行っていたり。そのときには小さな作業所は影響を受けて、この人たちをどうしようかということで、いろいろ頭を悩ませたり、手続きに困ったりしたようなんです。だから、二度とそういうことのないように、ぜひ申し入れをしていただきたいと思います。

それから、長期のひきこもりが、39歳までだったのが59歳まで引き上げられましたよね。だから、それだけ長期化しているということで、こういう調査や何かでも本当に人手や何かが必要のと、ご近所でも家族を刺すという事件が起きて、家族会でも参加されたお父さんが、本当に家の中で家族が緊張しているという状況が生まれて、どうしたらいいかという話もされて、まず褒める。あまりしらしらしい褒め方をするとさぞだと思えるかもしれないけれども、食べてくれてありがとうみたいなことでもいいから、そういうつながりの工夫なんかもしたほうがいいかもねなんていう話もあったんですが、就労についてもいろんな課題があると思っています。

(山根副会長) ありがとうございます。鶴田委員、お願いいたします。

(鶴田部会長) 事例検討が充実したという声は幾つかあって、うれしいなと思ったんですけども、昨年度から今年度の中で、こんなことでいいのかと思ったんですが、そのことが逆に刺激になって運営会議とかが充実して、中身を濃くしていくことができたのではないかなとは思っています。僕らは就労支援みたいな仕事をしていて、できるんだよという話をしていくわけですが、地域を変えるというよりも、一緒に変えていくことができるんだというスタンスでやっていくということが大事なのかなと。それで、できることを探していく。もちろん言うべきことは言っていかなければいけないし、それがなれ合いにならないような形で進めていかなければいけないのだけれども、そういうことが少しずつでき始めているのかなという実感を持っています。自立支援協議会として、より地域をいいものにしていくということが続けていければと思っています。僕なんかは社会運動とか障がい者運動にかかわった関係で、あれができていない、これができていないと結構言いがちですけども、それだけではなかなか変わっていかないというのは、実際人を支援しているときもそうなので、どうしていったらいいのか、じゃ、一緒に何ができるのかというところからやっていかなければいけないのかなと思っています。

でも、現実問題として、今でも大田区の中に住み続けることができなくて、地方の施設に行かざるを得なくて、帰りたくても帰れない人がたくさんいるという現実もある中で、どうすればここに住み続けたいと思う人が住み続けられる地域をつくっていけるのか、働きたい人が働ける地域をつくっていけるのかというところで、みんなで知恵を出し合っていくという意味で、自立支援協議会は結構いい仕組みだと思っています。ほかの子どもとかの委員会とか会議に出ている方に聞くと、具体的な話がここでできて、実際変わっていくことがあるという仕組みとして大事にしていければいいなと思っています。そういう意味で、のみ委員の人も含めて参加できる合同部会で話ができる、そこで進めていくと同時に、運営会議とかでもんで、今日みたいな形で充実した会議をつくっていくことができればいいなと思っています。以上です。

(山根副会長) 栗田委員、お願いいたします。

(栗田委員) 来年度に向けて、1つお願いがあります。5年ぐらい前から、福祉の業界だけではないのですが、人材というところで確保が難しいと言われていています。私どものグループホームは、24時間365日の支援体制を整えていくという中では、かなり危機的な状況が5年ぐらい前からございまして、それが現在で言うと、明日にでも立ち行かなくなる可能性があります。これは本当に大げさではなくて、今いる支援者が一人でも欠けたときには、どこかに大きな負担があって、そのひずみは結局のところ利用されている方たちの生活に直結してしまうという本当に危機的な状況にあるということをお伝えしたいと思います。ですので、自立支援協議会で部会を超えて人材確保、人材育成ということについてお知恵を拝借したいところと、各施設ごととかではなくて、大田区で暮らされている方の生活を支えていく基盤となる安定した支援体制を構築するにはどうしたらいいかということにも踏み込んでいただけたらありがたいかなと思っていますので、来年度、ぜひよろしくお願いいたします。

(山根副会長) ありがとうございます。委員の皆様には、この会議のためにご意見を準備していただき、ありがとうございます。何かこの場で述べるのがまだおありの方は、最後にご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

(志村部会長) 済みません、勉強になりましたというのはだめだという言い方をしてしましまして、皆さんにショックを与えてしまったようですけれども、もちろん初めて参加されて、どんな様子かなというところかなと思います。ただ、岡田さんから委員任期について意見があったのですけれども、先ほど関さんが説明された32、33ページあたりのところを見ていくと、私は個人的には長くかかわって、連携機関がこのように明示されてきたというのはとてもいいなと思っています、それが右側の33ページのそれぞれの部会ときちんとつながっているなという実感も持っているところです。ここに多分グループホーム連絡会が次年度入ってくるのだろうと思っています。委員の方は、ぜひ今ご自身がこの母体から出たかというのを意識して、そちらの団体にどんなフレームをつくって協議会と連携をとるかということ、個人的な自分は知っている、知らないというよりは、前から引き継がれた情報であったり、事業であったりをもって、それとは違うのではないかなみたいなところを持ち帰って、また戻してくるという仕組みをつくっていただければいいのかなと思っています。

ちなみに、手前みそですけども、おたTSネットというのは新しくつくったグループですが、私は、自立支援協議会はとても大事だと思っていますので、委員としてごりごりと入らせていただいて、必要な部分にはのみ委員さんにも参加をしていただくことで、TSネットの定例会のほうでは必ず協議会の報告をさせていただいている。ぎつぎつの団体というものでもないの、やりやすさもあるとは思いますが、ぜひそのように仕組みをつくっていくところ。

あと、事務局にもお話をしたところですけども、どういうグループからこの方が出ているんだよ



という委員の役どころ、その役割も仕組みとしてきちんと整理をしていく必要があると思います。専門部会のみ委員の皆さんは、それこそ現場の声を上げていただくという役割で、自負を持って参加していただいていると思うんですね。今回アンケートをとろうよという話も、むちゃぶりのように運営会議で提案をさせていただいたら、とても回答率がよかったのは、無理を言ってよかったなと思っています。おかげで、今日のこの検討ができたのだと思います。どうもありがとうございました。以上です。

(山根副会長) 委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。この意見交換の内容につきましては、次年度の協議会運営に引き継いでまいります。

それでは、次第に従いまして、4「区からの報告事項」について、事務局、お願いいたします。

(酒井課長) 貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。それでは、私のほうから2点ご報告を申し上げたいと思います。

本日、机上に配布してございます、まず1点目が、おた障がい施策推進プラン策定の件でございます。今もたびたび話題に上ってございましたけれども、既に何回かご説明しているところでございますが、この計画につきましては、3つの法定計画と区の任意計画を一本化した総合計画として、来年度から動かさせていただく計画でございます。計画期間につきましては3か年プランでございます。こちらの策定に当たりましては、自立支援協議会からは白井会長にご参画いただきまして、まことにありがとうございました。

ご説明したいところは多々あるのですが、冒頭、青木所長からもございましたように、今後、ホームページ上でも公開してまいりますので、ぜひとも皆様には一読をさせていただいて、きちんとご理解をさせていただきたいという思いもございます。そういう関係をつくっていかないと、お互いを知らないで話をしていくところが一番誤解を招きやすいかなと思っていますので、今日私がご説明したいところは、ポイントだけ絞ってご説明を申し上げたいと思います。

第2章をご覧ください。これも何回かご説明しておりますけれども、トータルいたしますと、1年間で約1,100人の障がいを持たれている方が増えている状況でございます。非常に大きな数だと考えてございます。この数も、例えば施設をつくるから、あるいはサービスを単純に増やすというのは、先ほど栗田委員からもお話がございましたように、いわゆる介護の分野も含めまして、今、人材が非常に厳しい状態でございます。これを本当にどうやっていくのかというところは、今までのやり方の考え方だけを踏襲して、自分のところはこれでやっていきますという話だけではなかなか進まないという我々区としても認識を持っているところでございますので、次年度以降の3か年のプランの中でも様々なことを多角的に検討していきたいと思っていますので、そういったことでぜひお受け止めをいただければというところでございます。

施策の流れといたしましては、3点、大きな課題として挙げてございます。第3章、重点課題3点でございます。今もお話が出ていましたが、地域での暮らしを支える場の機能の充実を図っていかねばいけないというところが非常に大きなポイントだと思っていますので、これがまず第1課題でございます。

続きまして、地域における包括的な支援体制の構築、これも今もお話が出ております分野を超えて、あるいはご家族の中でも例えばダブルケアの方もいらっしゃると思います。そういった施策の部分も、今までの障がいのプランのところだけを検討していたら多分漏れ落ちていくだろうとなりますと、いわゆる児童分野、高齢分野を含めて、どういう体制をつくっていくのか、あるいはネットワークを築いていくのかというところを2点目の柱にしてございます。

3点目といたしましては、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行されておりますけれども、これもご説明を申し上げたかと思うんですが、当事者の方は、まだ2割しかこの法律ができたことしか知らない。中身に関しまして知っている方は1割に満たないという状況もございまして、権利擁護ということをやろう場合、どうやって権利を伝えていくのかということも非常に大きなポイントになってくるかなと思っていますので、ぜひともお受け止めをいただければというところでございます。

そういったところで、もう1つ、今日皆様のほうにお配りしてございますが、差別解消法の課題の中で、「あなたに身近な障害者差別解消法」というパンフレットを今回6万部つくらせていただいております。中をご覧くださいいただければと思うんですが、昨年度は3万部パンフレットをつくったのですが、今回は視点を切りかえまして、次世代を担う子どもたちに、いわゆる権利というもの、対等平等の関係であるということをお話していただきたい。そこから社会づくりに一緒に取り組んでいただきたいという観点から、今回、小学校4年生、5年生の総合学習の時間等でちょうど人権というものを学び始めるという学年の単元になっておりますので、主にその部分にターゲットを当てまして、こちらをつくらせていただきました。これにつきましては、教育委員会とも連携をして、中身の監修等につきましては教育委員会にもご尽力をいただいたところでございます。ただ、これをつくっ

てまっただけですと、ああ、もらった、終わっちゃったという話に多分なってしまうので、これも教育委員会と話をしております、総合学習の時間等の中で、いわゆる副教材的な扱いで、ぜひ授業の中で触れていただきたいということを我々のほうも今働きかけをしているところでございます。

中身については、いろいろご意見もあろうかと思うんですが、もう1つの視点としまして、当事者の方にとっても、いわゆる差別ってどんなことなのかというのをわかりやすくまとめてみている感じもございますので、例えば各事業所の現場等の中でもお使いいただけたところがありましたら、お互いに学び合って、共生社会の実現というところに一步でも歩みを進めてまいりたいと考えてございますので、ご理解、ご協力をいただければというところでございます。私にいただいた時間は5分でございますので、貴重な時間をどうもありがとうございました。以上でございます。

(山根副会長) 酒井課長、ありがとうございました。

では最後に、次第の5「まとめ」を白井会長、お願いいたします。

(白井会長) それでは、いただいたお時間は3分間ですので、私のほうから、今日印象に残りましたことも含めまして、2点ほどお話をさせていただきたいと思います。先ほど、次年度、事務局機能をサポートセンターが担いますというご説明があったかと思えます。改めて関次長から自立支援協議会に求めることをお伝えいただきましたので、そのことも踏まえながら、私なりに、今日感じたことをお伝えさせていただきたいと思います。

まず1つ目ですけれども、今年度、自立支援協議会が掲げておりました具体的な取り組みについて、改めて、何で具体的な取り組みが必要なのかなと第三者的にご意見を聞きながら考えておりました。そういったときに皆様方のご発言の中から幾つかポイントになるようなお言葉があったかなと思ひまして、例えば、子どもに関する議論については非常に熱心だということでは、成長ということを考えますと、子どもの成長は待ってくれない。私たちの生活も、ちょっと待ってと止めることができないといったときに、ちょっと待ってと、もうちょっと先では追いつかないような状況の中で、自立支援協議会という立場の中でできることは何かと考えたときに、やっぱり具体的な取り組みのかなということも改めて感じた次第でございます。

2つ目としましては、今日は連携という言葉が何度も出てきたのですけれども、連携って何だろうかと考えたときに、別の言葉で言い換えたときに、先ほど宮崎さんのご発言の中にありました、お互いにつながる糸を太くしていくことなのかなと思ひました。そのときに、実はつながらなければいけない先っものすごくたくさんあるんだなということも同時に感じました。大田区内で関係する団体があるのだけれども、実はというご発言がありまして、ああ、そうなのかなということも初めて知ったのですが、そうしたときに、どこどこをつないでいったらいいのかなということが一番ご存じなのは、ここにいらっしゃる皆様方なのかなと思ひたんですね。と申しますのは、当事者の方であったりだとか、いろんなお立場である支援者の方であったり、あと学校とか行政機関、いろんなお立場の方々、どこどこをつなげば、ここにいらっしゃる以外にも、いろいろ支援を求めている方たちがよりよく生活できるためにつながる必要があるのかということをご存じと感じました。連携ということは、確かにたった2文字ではあるのですけれども、連携とかネットワークという実現するのはすごく難しいのですが、もうちょっと敷居を低くして、お互いにつながる糸を太くしていけばいいんだとか、ない糸はつくっていけばいいのではないかなと、もうちょっと気楽に考えながら、それでありながら、来年度はより着実に成果につながるような活動をしていけばいいのかなと感じております。

それでは、今年度の本会、協議会活動はこれで一応締めくくりということになりますけれども、あと4日寝ましたら新年度になりますので、4月からまたいろいろな形で協議会活動にご協力いただければと思っております。今日は長い間どうもお疲れさまでした。

(山根副会長) 白井会長、ありがとうございました。

(障害福祉課長) 事務局を代表いたしまして、障がい者総合サポートセンター青木所長のほうから一言ご挨拶をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(障がい者総合サポートセンター所長) 一言御礼を申し上げたいと思ひます。今日は本当にありがとうございました。来年度からは、先ほど関のほうから申し上げましたように、障がい者総合サポートセンターが事務局を一手に引き受けさせていただきます。私も関も異動いたしませんので、4月2日以降もこちらのほうで執務をさせていただきます。よろしくお願ひしたいと思ひます。今日は、志村さんのほうから勉強になっただけではだめだというお話でしたが、私は本当に毎日勉強ばかりさせていただいて、今日も非常に勉強になりました。私は福祉の世界に来ましてまだ3年たっていないんですね。私は区役所生活が丸26年になりますけれども、それまでは福祉とは全然違う、どっちかという経済だとか産業だとかという畑にずっとおりました。そんなこともあって本当に勉強させていただいているのですけれども、そういった中で、逆にこの業界にいなかったものですから気づいている部分もあるのかなと思ひますので、その新たな視点で、私はパンドラの箱をあけるのが好きなので、

パンドラの箱をあけると、その中には希望しかないという話ですけれども、さらに自立支援協議会が活性化するためにどのように進めていったらいいのかという、今日いただいた意見も含めて、サポートセンターとしてしっかりとサポートしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

(障がい者総合サポートセンター次長) メンバーで、多分今年度でおしまいという方もいらっしゃるかと思うんですけれども、次年度早々の第1回目が決まっておりますので、その日にちをお知らせしたいと思います。4月20日(金曜日)13時30分から15時30分ということですが、場所が新井宿特別出張所になりますので、3階会議室ということで、ここではありません。というのは、実は私どもの施設は利用率がすごく上がってきております。ということで、障がい者の団体の方により多く使ってもらうために、行政利用はなるべく検討したいということで、新井宿特別出張所の協力を得て、そんな動きも来年度以降入ってくるかと思っております。というのも、うちが障がい者総合サポートセンターですので、どうぞよろしく願いいたします。

(山根副会長) ありがとうございました。以上をもちまして大田区自立支援協議会第3回本会を閉会いたします。委員の皆様、1年間自立支援協議会にご協力ありがとうございました。